

令和2年度 施策評価シート

基本目標		「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる
施策の目標	区内に点在する観光拠点・資源の連携により、観光地としての魅力が向上するとともに観光プログラムが充実し、多くの人々がすみだを訪れ、まちがにぎわっています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	観光客による区内観光施設等の平均立ち寄り地数									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標					3.5か所					4.0か所
実績		2.35か所								

指標名	区内を訪れる観光客数（観光関連施設入込客数及びイベント入込客数）									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標					4,500億円/年					4,750億円/年
実績		4,200億円/年								

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
平成29年度に実施した「観光消費額等調査」を実施し、令和2年度に再調査を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響もあり、調査の実施を見送ることとしたため、各指標の目標年度を次年度に先送りとした。	H29	157,063
	H30	132,990
	R1	132,633

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	区内回遊促進イベント等の実施により、多くの観光客が区内を訪れ一定の成果は出ているが、今後は民間事業者が行うイベントの誘致などについても検討していく必要がある。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。

【上記の判断理由】

スカイツリータウンによる経済波及効果を区内全体の産業活性化に結び付ける上で、観光施策の推進は、本区における最重要テーマである。区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくるため、より効率的な運営を図る必要がある。

【今後の具体的な方針】

更なる観光客の誘客を推進すべく、令和2年度中に整備される「北十間川・隅田公園観光回遊路」や「両国リバーセンター」等、新たな観光資源を活用したまち歩き観光、「すみだ3M運動」や「すみだ地域ブランド戦略」と連携したものづくり観光、すみだならではの観光資源を活用したまち歩き観光、商店街・商業施設等と連携した観光プログラムの充実を図っていく。

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
					年度実績値	評価対象年度
1	地域DMOの推進	12,694	4,369	17,063	9,700,000	改善・見直しのうえ継続
					7,468,410	令和元年度
2	区内循環バス運行等経費	97,432	6,990	104,422	4,500	改善・見直しのうえ継続
					3,736	令和元年度
3	水辺を活用した賑わい創出 事業	15,748	4,369	20,117	68,000	改善・見直しのうえ継続
					186,180	令和元年度
4	地域連携区内回遊促進イ ベントの実施	6,759	5,243	12,002	6,600	改善・見直しのうえ継続
					3,317	令和元年度
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	推進協議会・連絡会等の開催				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		5	R2	目標	0	5	6	6
				実績	0	5	1	8
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	6						
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	地域ぐるみで地域の賑わい創出や活性化に繋げるため、地域や民間事業者等広く多様な関係者との活発な意見交換が求められる。なお、平成30年度からは、推進協議会ではなく、宿泊事業者等区内事業者との情報交換連絡会、ワーキンググループやワークショップ等連携・協力のための会議の開催回数を指標にしている。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	区内を訪れる観光客数 (観光関連施設入込客数及びイベント入客数)				単位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
10,000,000		R7	目標	9,100,000	9,300,000	9,500,000	9,700,000	
			実績	9,175,663	8,142,160	8,211,870	7,468,410	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	9,800,000	9,800,000	9,850,000	9,900,000	9,950,000	10,000,000		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
墨田区基本計画にある「すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる」という施策の達成をはかる指標として掲げられているため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	地域DMOが自主的に観光資源の発掘や発信を行えるモデルケースを構築することは、区全体の魅力の向上につながるものと考えられる。今後は、観光客の視点から地域の日常を、地域の理解や協力も得ながら、掘り出し(地域おこし)を行うことにより、観光資源を磨き上げていく。また、DMOが主体となり、墨田区、事業者、地域と連携・協力しながら、地域ぐるみで来街者を受け入れる仕組み作りを行う。

課題・問題点
地域が考える「観光まちおこしに関する地域の課題」を洗い出し、区民・事業者・行政それぞれができる事を把握・整理し、短期的には区が主導して調整を行い、いずれはDMOが中心となり、地域や民間事業者と連携し、地域主体の自主的な取組を継続できるよう支援していく必要がある。

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	1日乗車券の年間販売枚数				単位	枚
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		2000	R 7	目標	2000	2000	2000	2000
				実績	3697	3171	1530	918
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	2000	2000	2000	2000	2000	2000	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	観光客の利用状況の推定指標となるため							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	1日当たりの平均乗車人数				単位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
4500		R 7	目標	4500	4500	4500	4500	
			実績	4119	4053	3934	3736	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	4500	4500	4500	4500	4500	4500		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
利用状況の指標であるため								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	区民の生活の足としては定着している。目標の1日平均利用者数4,500人に達するよう、引き続き利用者増に向けた取組を進めていく。

課題・問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が目標に達していないため、利用者増に向けた取組を進める必要がある。 ・次期協定締結の令和4年4月に向け、バス事業全体のあり方について見直す必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度3月以降乗客数が減少傾向にある。安定した事業運営のため、収支不足額にどのように対処していくか検討する必要がある。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	イベントの実施回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		12	R7	目 標	7	9	9	10
				実 績	7	9	9	6
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	10	11	11	12	12	12	
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	水辺の賑わいを創出する事が出来るイベントの実施回数とした。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	イベント来場者数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
220,000		R7	目 標	44,000	65,000	65,000	68,000	
			実 績	44,000	69,000	51,500	186,180	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	195,000	200,000	205,000	210,000	215,000	220,000		
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
イベント実施により、多くの観光客を誘客し、水辺に賑わいを創出することを目的としているため、イベント来場者数を設定した。 他の細目から「墨堤さくらまつり」及び「納涼の夕べ」を移管したため、令和2年度から目標値を上方修正した。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	区主催によるイベントの実施を行ってきたが、事業の継続性の観点から、区費負担によるイベントの実施を見直していく必要がある。今後の方向性としては、区は側面支援に回り、地域のアイデア・活力を活用し、地域との協働により、恒常的な賑わいの創出に取り組んでいくこととする。

課題・問題点
<p>本事業は、民間企業の協賛金・協賛品も活用しながら区主催により実施してきたが、イベント予算の大半又は全額を区費による負担としている。この為、事業の継続は区費に依存しており、新型コロナウイルス感染症の歳入への影響を鑑みると、地域との協働、地域への支援にシフトし、継続的に賑わい創出に向けた取り組みが行えるよう、事業の実施方法を見直していく必要がある。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	イベント来場者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		176000	37	目 標	185000	172000	172500	173000
				実 績	182500	172000	177000	177000
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	173500	174000	174500	175000	175500	176000	
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	観光資源を連携させたイベントを実施することで、観光客等に対して、区内回遊を促す効果が期待させるため							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	スタンプラリーに参加した区内回遊者数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
6900		37	目 標	6500	6500	6550	6600	
			実 績	6500	6538	6252	3317	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	3100	3150	3200	3250	3300	3350		
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
イベント実施による直接的な成果指標であるため 令和2年度まで実施していた「東京スカイツリータウン内のひろばを活用した回遊促進イベント」は令和2年度以降の実施予定なしのため、目標値をキャラクターフェスティバルに合わせて設定変更。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	東京スカイツリー®を訪れる観光客等の区内回遊を促進し、各地域の観光資源の認知度向上及び経済効果が期待されるイベントである。 今後は、コロナウイルス感染症の影響により「三密対策」が不可避となると考えられるため、より安心・安全な事業運営を目指し、運営事業者・関係部署及び区内団体等との連携強化を図る必要がある。

課題・問題点
現状、大勢が密集するイベントとなっているため、次年度以降はイベントの内容を見直す必要がある。 また、地域や民間企業との連携強化を図り、恒常的に区内回遊が促進される仕組みづくりを進めていく必要がある。